

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	マルメロ夜イチ事業
事業主体 (連絡先)	マルメロ市実行委員会
事業区分	⑥ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,363,518 円 (うち支援金 : 930,000 円)

事業内容

道の駅マルメロの駅を舞台としたナイトマーケットイベントです。具体的な内容は、

- ①長和町の名産品や特産品の出店
- ②キッチンカーや屋台に飲食品の販売
- ③ハンドメイド・工芸作家による販売やWS開催
- ④ファミリー連れが楽しめるアトラクションやAS開催。縁日ブース運営
- ⑤町の倶楽部活動などステージイベント

上記を踏まえ、観光客はもちろん、地域、町外(県内)の若い世代もターゲットとして、その世代に向けた内容を企画した、お客様自身が楽しみ方を見出す、体験イベントです。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 入場者数
7月21日 約600名 8月4日 約500名
- ② 天候にも恵まれ(日中は暑すぎて、動員に繋がらず)、概ね予定通り開催することができた。
- ③ 来場者からも「来年も開催を」という声掛けをしていただいた。
- ④ 出演希望の相談も受け、来年以降への展望も見えてきた。
- ⑤ 来年は宿泊等にも繋げて、夏イベント＝夜イチを定着させていきたい。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今年、町内外の複数の(ダンス等の)倶楽部から出演に関する相談を受けた。近年では「ダンス」が中学校の必修科目となったことから、ダンスなどの倶楽部活動が活発化し、発表の場を探している模様であり、マルメロ夜イチは、その場に適していることが考えられる。今後はダンス等の発表の場としても、イベントを盛り上げ、継続していきたいと思う。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【会場風景】

【目標・ねらい】

- ① ナイトマーケットイベントの定着化
- ② 町観光スポットの新設
- ③ 観光客と地元住民の交流
- ④ 各回500名以上の来場者

※自己評価【B】

【理由】

今年の酷暑により、日中の来場は厳しかった。開催時間の再考が必要である。また、開催時期が近いいため、PRに時間が割けなかったため、広がりにかけた。

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州・青木村 交流人口拡大モデル創出事業
事業主体 (連絡先)	青木村 (商工観光移住課) 0268-49-0111
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,647,427 円 (うち支援金：1,276,000 円)

事業内容

- 体験型観光モデルツアーの実施(ツアー参加者 11 人)
平成 30 年 9 月 8 日 (土)、9 日 (日)、一泊二日
 - ・ 見学：青木村施設、国宝「大法寺三重塔」
 - ・ シルククラフト (絹のランプシェードづくり)
 - ・ 青木村特産「タチアカネ」そばの花・実の鑑賞
 - ・ 青木村特産「タチアカネ」そば打ち体験
 - ・ 信州・青木村サポーターズ倶楽部への入会あっせん
 - ・ 村民との交流昼食会
- アオキノコちゃんを活用した情報発信
 - ・ 青木村産業祭、青木村節分祭
- 「元気な田舎暮らし」を紹介するテキスト作成



【体験ツアーの様子】

【目標・ねらい】

- ① 青木村を訪れる交流人口の拡大
- ② 村の魅力を効果的に情報発信できる体験メニューの開発
- ③ 青木村のファンづくり

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 「元気な田舎暮らし」を実現している青木村の日常を体験してもらうことにより、村の魅力を実感してもらい、交流人口拡大に向けた情報発信ができた。
- ② 「シルクのランプシェードづくり」が好評であり、体験型観光メニューとして魅力があり、実現可能性の高いものであることが分かった。
- ③ 信州・青木村サポーターズ倶楽部へ新たに 6 人の入会を得ることができた。
また、村のキャラクター「アオキノコちゃん」の集客効果によりイベントの魅力が拡大できた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

特産「タチアカネ」のそば打ち体験をはじめ、「シルクのランプシェードづくり」や農産物の栽培・収穫など、青木村で日常として行われていることが体験型観光のメニューとして魅力があることが認識できた。今後は、こうした村の体験メニューなどを SNS の活用などにより効果的に情報発信し、交流人口の拡大につなげたい。

※自己評価【B】

【理由】

- ・ モデルツアーにより青木村の魅力を体験してもらい好評を得た
- ・ 今後の体験型観光の在り方についての検討材料が入手できた

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州・青木村 魅力発見事業
事業主体 (連絡先)	青木村 (建設農林課)
事業区分	(8) その他地域の元気を生み出す地域づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	822,442円 (うち支援金: 637,000円)

事業内容

青木村と東京農業大学との包括連携協定に基づき、当村の魅力を再発見・再認識・発信し、村の目指す姿を実現。
 ○学生が発見した魅力を「青木村の宝」に編集し発信。
 ○東京農大に出向き当村の魅力を発信：11月3～4日
 ○農大生が当村の魅力を調査・分析し村民とともに考える場「東京農大＝信州・青木村セミナー」を開催：
 2月14日 文化会館 学生等13名、村民48名計61名



【東京農大＝信州・青木村セミナー】

事業効果

- ① 青木村に訪れた東京農大生が村民との交流や調査を通じて、当村の魅力を発見できた。
- ② 村民にとり、「学生の問いかけに応じることを通じて、青木村の魅力を再認識する機会」となった。
- ③ 小冊子「東京農業大学生が見つけた信州・青木村の宝」を発刊し、広く青木村の魅力を発信できた。
- ④ 農大収穫祭、産官学連携会議に出向き、魅力を発信。
- ⑤ 農大生が調査研究結果をセミナーで報告し、村民と共に村の魅力・活性化を考える場が設定できた。

【目標・ねらい】

- ① 青木村の魅力の再発見・再認識
- ② 青木村の魅力を発信
- ③ 村が目指す姿「元気で豊かな村・日本一住みたい村」の実現

今後の取り組み

- ※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。
- 1 東京農大生からは、本年度のまとめをベースに、青木村の魅力を更に探究する動きが始まった。
 - 2 首都圏での「青木村の魅力」発信の動きが、村民レベルで始まった。(翌年度)
 - 3 今後は、青木村と長和町、JA信州うえだとの広域連携交流についても検討する。

※自己評価【 B 】

【理由】農大生により青木村の魅力が明確化した。学生との交流で刺激を受けた村民は、村が目指す姿の実現に向け、共通認識の基、議論が深まった。加えて首都圏で「青木村の魅力」を発信できた。

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ふれあいサロン 地域住民の交流の場づくり事業
事業主体 (連絡先)	豊殿ふれあいサロン運営委員会 上田市芳田 1192-1
事業区分	安心・安全な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	542,160円 (うち支援金: 421,000円)

事業内容

「孤立」「孤食」が社会問題化するなか、“気軽に集える居場所があったらいいな”そんなつぶやきから誰もが気軽に立ち寄れる場所。地域のボランティアの皆さんを中心とした住民の皆さんの活動の場、交流の場として「ふれあい、語り合い、支えあい」を通じて住み慣れたところで安心して暮らせる心豊かな地域づくりに貢献することを目指し活動します。

- ・食べ物、飲み物等の提供
コーヒーやお茶、お昼のランチを提供しています。
- ・趣味の教室、季節のイベント、健康体操教室、よりあい広場等の開催
世代、地域を超えた交流の場として事業展開します



【みんな楽しく】

【目標・ねらい】

- ①誰もが気軽に立ち寄れる場づくり
食べ物、飲み物、ランチの提供
- ②教室、イベント開催等による地域住民との交流の場づくり。
- ③健康体操、よりあい広場。気軽に集いあえる交流の場づくり。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①支援金を活用してサロンの設備を新設した。
コーヒーやお茶の提供のほか営業許可を取得してからはお昼にランチの提供を開始。大好評を得てサロン来場者は一日平均30名を超え増え続けています。
- ②趣味の教室、イベントの開催
コンサート、折り紙教室、もちつき大会等を行って、地域住民の皆様との交流を深めることにより、誰もが気軽に集い会える場所としての機能が充実してきた。
- ③健康体操教室、よりあい広場等の開催
よりあい広場の実施により、世代・ジャンルを超えてみんなが集い「楽しいひととき」を共有しました。

※自己評価【A】

【理由】

- ・お昼のランチは好評で日々集う仲間も一日30人を超える。
- ・イベントでは、地元の皆さんとともに活動。多くの皆さんが集う。
- ・地域みんなが集う場所となった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

ふれあいサロンの居心地のよさが浸透し多くの皆様が集える場所となってまいりました。お昼のランチも好評で、ボランティアの皆さんも訪れる皆様全員によるこんでいただけるよう日々努力しております。より多くの皆様に訪れていただき喜んでいただけるよう、安定的な運営活動を目指しボランティアの皆様を募集しつつ魅力あるサロンとして活動して参ります。

4月からは、兼ねてより計画されていた「hinata bocca 健康体操」を毎月第2火曜日に実施してまいります。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成 30 年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州上田たろうフェスティバル		
事業主体 (連絡先)	一般社団法人 上田青年会議所 0268-22-5074		
事業区分	(6)オ その他地域の特色、個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業		
事業タイプ	ソフト		
総事業費	3,284,345	円(うち支援金:	2,621,000 円)

事業内容

日 時 : 9月9日(日曜日)
 開催時間 : 午前9時~午後4時30分
 場 所 : サントミュージ交流芝生広場

上田小県に豊富にある資産のブランディング、ブランド力強化を図るため集客が見込める音楽フェスを通じて来場者へ発信。美味だれやきとりをはじめ地元から30店舗が出店。また、地元高校生バンドから長野県内出身のアーティストによるライブを行った。全国各地の野外フェスに出演しているメジャーアーティストも登場した。



【 会場内の様子 】

【目標・ねらい】

- ①地域資産のブランディング・ブランド力強化の推進
- ②市民力の結集
- ③地域活性の側面も担う

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①約8000名の参加者の方々へ向け上田小県の豊富な魅力を発信し、触れていただく事ができた。出店者と参加者とのコミュニケーションを通じてのブランディングは地域資産をより認識していただく上で効果的であった。

②大幅な集客の背景として出店者や出演者による口コミやSNS、HPでの広報の影響も大きかった。また、事業を通じて学生ボランティアの方々をはじめ様々な方に関わっていただくことで市民協働を体現することができた。

③ライブステージを併せて行うことで集客力の強化、中心市街地近郊ということもあり予想以上に賑わったことで地域活性の側面を担うことができた。幅広い年齢層の方々に楽しんでいただくことができた。

※自己評価【 A 】

【理由】

当初目標参加者数(3500名)を大幅に超える8000名ものの方々にお越しいただけた。市民協働により賑わい、お子様からご年配の方まで様々な年齢層の方に楽しんでいただくことができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

来年以降も引き続き、上田小県の魅力を発信しブランディング・ブランド力強化を図っていききたい。信州上田たろうフェスティバルを通じて上田地域への誘客がさらにできるように内容や開催時間等改めて考え、実践していききたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成 30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	みんなの居場所づくり事業
事業主体	上田ボランティア連絡協議会 (0268-25-2629)
事業区分	地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,219,555 円 (うち支援金: 975,000 円)

事業内容

「居場所を拠点として誰でも、いつまでも安心して生活できる地域を創造」を運営理念とし「来るものは拒まず、去る者は追わず、地域住民で新たな支えあいの仕組みを構築」をコンセプトとして以下の事業を実施した。

1 「みんなの居場所」事業

机や調理器具、食器など「居場所」に必要な環境を整え運営を行った。

(1) 子どもを中心とした居場所

- ・こどもカフェとして開催し、学び、遊び、食事をおして子どもと大人の交流の場とした。
- ・月1回土曜日開催

(2) 子育て中の親子から、高齢者、障がい者等どなたでも地域住民の交流の居場所

- ・小物作り、おしゃべり、食事など楽しんだ
- ・平日週2回(月、木) 10時から3時まで

2 研修会の開催(3回)

「居場所」の運営スタッフと地域住民を対象に、事業の意義の理解を深めるとともに、運営についての研修を行った。



【大人と子どもの交流】

【目標・ねらい】

- ① 地域支えあいの仕組みづくり
- ② 子どもの安心を支える
- ③ 地域の交流拠点
- ④ 地域住民の担い手の発掘

事業効果

1 (1) 子どもを中心とした居場所

- ・毎回参加している子どもがリーダーになるなど、「居場所」の中で子どもが成長していることを実感できた
- ・子どもと大人との交流が生まれている。
- ・事業が徐々に周知されている
- ・6回開催 子ども24名 大人108名参加

1 (2) 子育て中の親子から、高齢者、障がい者等どなたでも地域住民の交流の居場所

- ・週2回開催し、述べ263名が参加した
- ・住民の協力が得られ、参加運営スタッフが3人増えた

2 研修会

- ・地域を超えて参加があり、事業の実施にあたり、事業の重要性を学んだことで、支えあいの仕組みづくりができた。
- ・3回開催 53名参加

※自己評価【 B 】

【理由】支えあいの仕組みづくりの目的のもとに、居場所の環境整備や居場所の開催を行うことができ、地域に少しずつ周知でき利用者や運営に参加される人が増えてきた。

今後の取り組み

事業目的を地域住民に周知するための活動を自治会やボランティア団体や企業などにチラシやイベント等を通じて知らせ、参加者を増やす。不登校児童の居場所としての利用も当事者の親グループの要望もあり教育委員会とも連携して行う。様々な活動の場としての利用を、地域を超えて呼びかけ周知していく。

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	一場所多役の子どもの居場所事業
事業主体 (連絡先)	NPO法人子育て応援団ぱれっと (090-8329-3494)
事業区分	(4)安全・安心な地域づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	2,790,842 円 (うち支援金: 2,186,000 円)

事業内容

(1) 子供の居場所の開催

「子どもレストランきらっと」を開催した。

8/4 より毎月第一土曜日 AM10:00~15:00

- ・対象者 18歳までの子供及び地域住民
- ・会場 社会福祉法人まるこ福祉会 地域福祉空間
- ・内容 学習支援、遊びコーナー、食事コーナー、パン作りを社会福祉法人まるこ福祉会と協同体で行った。



【きらっとの様子】

(2) 子どもレストランきらっと開催にあたって研修会を2回行った。

- ・7/26 講師 浦野千絵氏
開催にあたっての留意事項、心構え。参加者 30名
- ・11/24 講師 宮田隼氏
関係者や地域住民向けの啓発 参加者 50名

【目標・ねらい】

- ①子どもの居場所開催の環境整備
- ②子どもの気持ちを支える
- ③異世代の交流
- ④貧困家庭の支援

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・開催のための環境設備のため、テーブル、椅子、調理器具などを揃える事ができ、利用される方にも満足できる環境となった。
- ・月1回の開催、合計8回で、参加者が子ども439名、大人258名、ボランティア280名となり、当初予定の数を超え、沢山の交流が出来た。長野大学生、地域高校生のボランティアも多く子ども同士の異世代交流できた。
- ・貧困家庭の支援には直接繋がっているかはわからないが、沢山の子ども利用と子供の声を受け止める事ができた。

※自己評価【A】

【理由】

子どもレストランで使用する食器、調理器具、学習機材など充実させることができ予定の人数の2倍を超える方が利用され交流の目的など達成できた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

子供同士のつながりを強めるための遊びの充実や、ボランティアスタッフの子供への関わり方などを学び、子供の安心を支えられる居場所を目指す。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	湯の丸高原におけるスポーツを通じた健康増進事業
事業主体 (連絡先)	東御市陸上競技協会 (0268-64-5893)
事業区分	教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	702,027円 (うち支援金: 553,000円)

事業内容

1 「第1回東御市湯の丸高原ランニングカーニバル」の開催

北京五輪メダリストの塚原直貴選手を招待し、記録会及びランニング講習会を開催した。

開催日 平成30年7月22日(日)

場所 東御市湯の丸高原スポーツ交流施設
(全天候型400mトラック)

招待選手 塚原直貴氏

2 「第1回湯の丸高原小学生駅伝大会」の開催

子どもたちの体力向上及び健康増進の意識向上を働きかけるとともに、近隣市町村のクラブチーム等に参加を呼びかけ、地域間交流を図ることを目的に、小学生を対象とした駅伝大会を開催した。

開催日 平成30年9月22日(土)

場所 東御市湯の丸高原スポーツ交流施設
(全天候型400mトラック、800m森林
ジョギングコース)



【湯の丸高原ランニングカーニバルの様子】

【目標・ねらい】

- ①子どもたちの体力向上
- ②市民の健康増進への意識の向上
- ③スポーツ振興
- ④地域間連携

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

ランニングカーニバル参加者数: 108名(目標120名)

オリンピックの塚原選手を招待し、走り方の指導をしていただくとともに、実際に「世界の走り」を目の当たりにすることで、子どもたちに大きな刺激となり、市のスポーツ振興に寄与することができた。

小学生駅伝大会参加チーム数: 14(目標20)

上田市から多くのチームに参加していただき、地域間交流を図ることができた。今後もお互いのイベントに参加し、交流を深めていくこととした。

今後の取り組み

来年度以降も、「第2回」のイベントを継続して開催し、子どもたちの体力向上、市民の増進意識の向上、スポーツ振興を図るとともに、地域間連携の強化を図る。

より多くの方に参加していただくため、早めの周知を行うように努めていく。また、地域間連携の観点からより多くの団体へ呼びかけを行っていく。

※自己評価【B】

【理由】

予定の参加人数を若干下回ったが、概ね当初の目的である健康増進、スポーツ振興、地域間連携等を図ることができた。

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ワインツーリズムを基軸とした観光二次交通実証運行事業
事業主体 (連絡先)	(一社) 信州とうみ観光協会 TEL:0268-62-7701 FAX:0268-62-7702 E-mail: info@tomikan.jp
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大に関する事業 ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	6,340,000 円 (うち支援金: 4,512,000 円)

事業内容

東御市内のワイナリーを巡る周遊観光交通を、6月～11月の土・日曜日、祝日、お盆期間中の計61日間、しなの鉄道田中駅を起点に1日5便、乗車定員9人のワゴン車両により運行した。

また、しなの鉄道(株)と連携して電車とバスの共通フリーパス「軽井沢⇄田中: 休日ワインきっぷ」を発行し、一次交通との連続性を確保した“千曲川ワインバレー・ワイン周遊ルート”の構築に向けて二次交通網の有効性を検証した。

さらに、運行終了後に地域住民との話し合いの場を設け、市民協働の「おもてなし」について考えるワークショップを開催した。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①二次交通の利用者増及び首都圏からの誘客

実績値: 1日あたり9.1人(61日間運行、計555人)
利用者の約半数がワインを目的として軽井沢または首都圏近郊から訪れた観光客であった。周遊交通の利用促進と東御市産ワインのブランディングに大きな効果があったといえる。

②来訪者の利便性・回遊性向上

停留所をワイナリー中心に絞ることで、便数の確保を図った。また田中駅からの発車をしなの鉄道のダイヤに合わせることで一次交通と連結した運行を行い、軽井沢駅からの利用者増につなげた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

満足度調査に基づいた利用者のニーズ等の集約を行い、期間や内容を検討したうえで次年度以降の運行の継続に繋げていく。併せて、農山村体験や郷土料理の振る舞い、伝統行事への参加など、地域の住民や事業者と一体となって観光客を迎え入れる体制づくりを進め、千曲川ワインバレーを中心とした滞在型の観光コンテンツの充実を図る。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【運行の様子】

【目標・ねらい】

- ①二次交通の利用者増及び首都圏からの誘客
- ②来訪者の利便性・回遊性向上

※自己評価 【A】

【理由】

当初の予想を上回る利用があった。また今後の事業継続に当たって、利用者のニーズの傾向の調査を十分に行うことができた。

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	郷土を代表する水彩画家丸山晚霞のアトリエ・「羽衣荘」の整備事業
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人 ひと・生きもの・暮らし研究所 長野県東御市八重原915-21
事業区分	(5) 環境保全・景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	486,810 円 (うち支援金: 341,000 円)



事業内容

①シャクナゲの植栽: 11月～1月

今回の植栽は隣地との目隠し的な効果を考えたものだが、結果的には、28年度以来の「元気づくり支援金」によって、シャクナゲがかなり植栽されたことで、「晚霞＝シャクナゲ」が改めて浮き彫りになった。

②旧アトリエの可視化: 10月～1月

別宅兼アトリエがあったことはあまり知られた事実ではないが、そのことを明確にすること及び、アトリエ跡地を可視化するために、跡地に散在する石を掘り起こし、その後、整理しながら埋め戻し作業を行った。

③説明版・看板設置: 11月～1月

説明版は2枚作製し、羽衣柏と藤村碑の前あたり(計2か所)と、旧アトリエ跡地(自作)に設置した。



【説明板お披露目の会】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

本年度、丸山晚霞記念館では周年事業(生誕150年)が予定されたことから、これまで以上に丸山晚霞が注目され、来訪者の増加が想定できた。記念館では、従来の倍増があったもようで、羽衣荘にも、その1割の700人から800人位の来訪があったと考えている。また、これまで「行ったけど、何もなかった」と感想が述べられている現状が散見される中、説明版設置のほか、簡易な椅子等を自分たちで製作した(1月末)ので、しばし庭園でたたずむ人が今後、増えることが期待できる。

【目標・ねらい】

- ①庭の更なる整備
- ②草花の植栽と手入れ
- ③記念館本体と連動した見学者の増加

※自己評価【 B 】

【理由】
看板設置は予想どおりの見栄えとなり、施設としてわかりやすくなった。掘り起こしの作業は大変だったが、可視化実現したと考える。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ①信濃毎日新聞も取り上げ、地元で声を掛けられるようになった。
- ②ただし、基本整備は終了したものの、今の状態をどう維持するかが課題。
- ③その意味でも、地元の方との協働の取り組みが今後も恒常的に必要となっている。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある